

# 震災支援が縁 絆の卵焼き

発達障害児の療育事業などを手掛ける三重県菟野町の「はがらかグループ」(三浦伸也代表)は同町での卵焼き専門店開業を目指し、陸前高田市高田町の飲食店「和食 味彩」(阿部昌浩店主)から調理法の指導を受けている。両者がつながったきっかけは、13年前の東日本大震災。発災後、同市内で絵本の無償提供や読み聞かせ活動を展開してきた同グループの新たな挑戦に、「支援への恩返しを」と卵焼きが名物の同店が協力。震災支援が生んだ、絆の卵焼きの販売が待たれる。

(高橋 信)

## 三重の事業者が販売目指す 陸前高田の名店が調理法伝授



三浦伸也代表

仕込みの作り方を療育事業所の利用者に伝え、「みんなでも楽しく働く場」の創出を思い描いている。

「よろしくお願ひします」。

今月中旬、三浦代表(61)と三浦代表の双子の息子、心さん(24)、元さん(24)の3人が味彩を訪ねた。

直接指導は今回が初めて。東京・品川プリンスホテルなどで腕を磨いた阿部店主(56)から手取り足取り教わった。今後も定期的に通い、習熟度を確かめる。はがらかグループは普段見守っている子どもたちの就労の場確保のため、令和7年度下半期に卵焼き専門店をオープンする構想。店の切り盛りを主に担う予定の心さんと元さんが、味彩

三浦代表は平成14年から、絵本の読み聞かせを通じ、全国の子どもたちに笑顔を届ける事業「絵本ライブ」を展開。東日本大震災が起き、「東北被災地の力になりたい」と、発災2カ月後の23年5月、陸前高田市内でも絵本ライブに乗り出した。

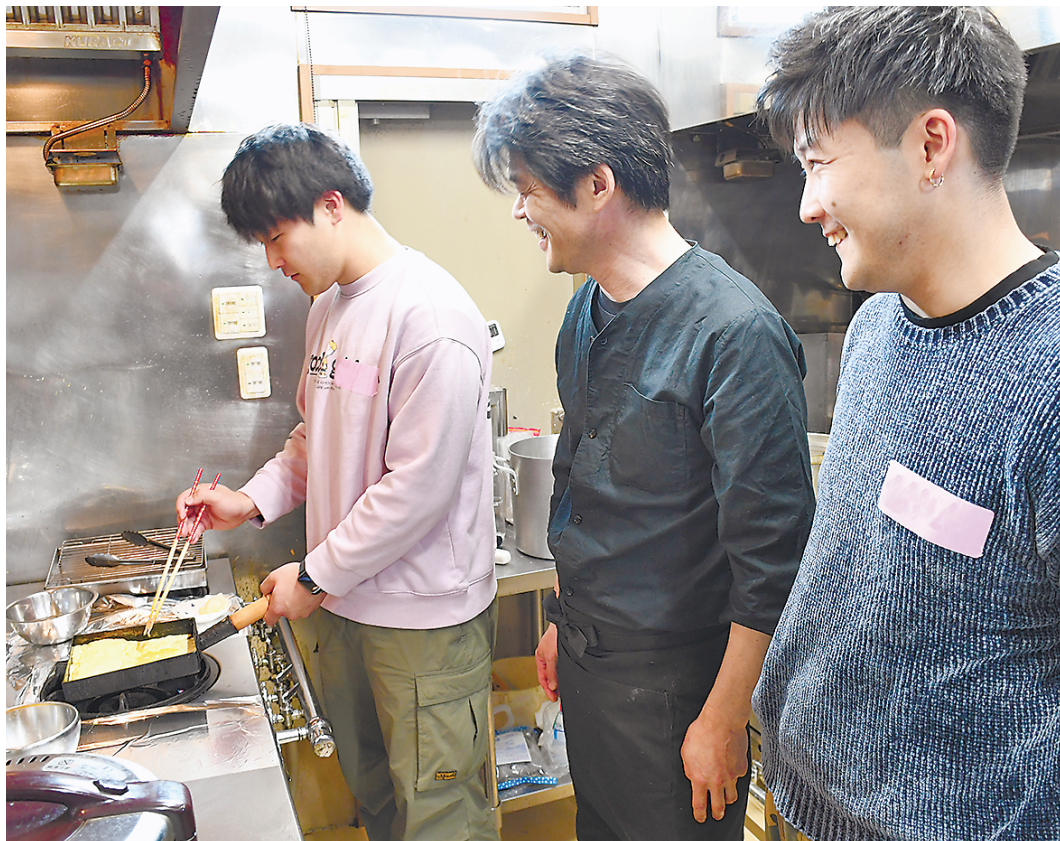
それ以降、三重から片道1000キロの距離を車で走り、毎月通った市内の保育所・保育園では「しんちゃん」の愛称で親しまれた。24年には三重県内から集めた絵本1万冊を同市に運び、延べ500人に無償で配った。保護者には読み聞かせを楽しむ子どもたちの笑顔を撮影したフォトムービーをプレゼントした。

「給料をしっかりと払える場にした。重要なのは味だ」。三浦代表の頭の中に「味彩」が浮かんだ。震災で被災し、新市街地に再建された店舗で、卵焼きを食べて以来のファンだった。

昨年夏、「師匠になってほしい」とダメ元で店の門をたたくと、二つ返事で承諾してくれた。阿部店主は「陸前高田の子どもたちのために活動を続けていた。今度はこちらが恩返しをする番」との思いで手を差し伸べたという。

三浦代表は「感謝してもきれない。阿部さんの思いに報いるためにも夢を形にする」と感激。心さんは「みんなで楽しく働く場をつくりたい」。元さんは「阿部さんの味に近づけるよう頑張る」と意気込む。

阿部店主と二人三脚で店を営む妻の裕美さん(56)は「しんちゃんは口にはいなくても実行するすごい人。支援者と被災者ではなく、対等な立場でつながり続けるきっかけをいただきたい」とエールを送る。



阿部店主④から卵焼きの作り方を教わる心さん⑤と元さん⑥